

【表2-2 削りかけ資料：信越】

地域	時期	名称	製作			形状			用途 ほか	対象物	文献	
			材の樹種	伐採時期	製作道具	削り	組合せ	その他				
新潟県												
山北町	雷	大正月※ ホウダル・ ホウダラ	ホオノキ	12月末の吉日	小刀	○※	2本1組 大小あり	—	小:2本をシナ糸(かつては麻糸)で結び1セットとし、玄関・仏壇・神棚・勝手口・便所等に飾る/ ※火難除で、元は小正月行事 大:2本をワラで縛り、〈オカネモチ〉という重ね餅と共にお盆 に載せて戴く/※昔は1月25日にやったものという /※大小共に4方を削る	—	1・ 調03	
	山熊田	小	ホウダル	?	—	鉦	○	2本1組	—	飾(2本をシナ糸で結び、火棚の4隅、または大神様・仏様・神棚等に下げた)→翌朝には子供の の玩具に/※10cm程度の長さの棒に3-4片の削りかけを削る ※材は記憶なし ※昭和30-40年頃 廃絶	—	調03
			アワノキ・ アワノホウダラ	ホオノキ	—	鉦	○	数本1組	—	飾(1~2尺のホオノキ数本うち半分を削りかけ(上記ホウダル状)半分は皮を剥いたままにして 束ねて門松の跡に下げる)	—	調03
	(旧八幡 村)	小	フダラ・ 削り花 (4種※)	〈クルミ〉	1・11 〈馬の歳取り〉	鉦	○	—	—	〈さいの神〉に献じて焼く/※かつては各戸で作ったらしいが1940年当時〈年祝ひ〉の者の家 でのみ作るように変化していた ※4種ともフダラとも削り花ともいい、名称は混同している	—	2
							○	—	削り片	神棚・〈お手かけ盆〉等にあげる	—	
							○	—	—	火棚の4隅・鉤のはなに挿し、又正月の贈答品に添える	—	
							○	2本1組	—	2本を糸紐で連結させ馬屋の鉤に懸ける	—	
	大川谷 地区	小	刀	ホオノキ	—	—	○	2本1組	—	飾(餅花<ミズギに団子を挿したものに添える)→〈サイの神〉の火に刀2本を持参し、うち1本を くべてくる/※刀を鑿を削りかけで表す ※昭和10年頃廃絶 ※火は〈ミコ〉が焚くとあり、習俗 衰退の要因の一つにミコがいなくなったことが考えられるとの報告あり(工藤報告)	刀	3・4
	府屋	小※	(カタナ)	※	—	—	○	大小2本	—	飾(〈団子シバ〉に下げる)→〈サイノカミ〉の〈ボンボン焼き〉の際、腰にさしていき、燃す/※こ こでは小正月は2月1日に行う ※昭和初年に廃絶 ※樹種はミズギかホオノキと記憶	刀	調03
	大毎	小	サイトボウ	ホオノキ	—	鉦	—	—	—	飾(〈団子シバ〉に下げる)→〈サイトサマ〉で焼く	刀	5
板貝	小	男のモン	〈松〉	当日朝(1・15)	ナタ※	○	—	—	〈サイノカミ〉の火で焼く/※これに触ると子供ができるという ※削りかけはナタを手前に引いて削る	男根	6	
見附市	明晶町	小	嫁たき棒	ヌルデ	—	—	○※	—	—	新嫁や新婿の尻を叩く/※削りかけで刀の鑿を表現 ※昔は近村でも行なっていたという	—	7
川西町	室島	小	はらみばし	ヌルデ	〈若木迎え〉	—	?	(箸)	切込あり※	15日の小豆粥を食べる/※5本の傷をつけ〈稲の花〉と呼ぶ	箸	8
大和町	桐沢	小	オンマラ	—	—	—	○	2本1対※	—	未婚の娘が〈サイノ神〉のご神木に投げかけ、良縁を占う/※2本を紐で結ぶ	男根	9
十日町市	小貫	小	けずりかけ	ウツギ	—	—	○	—	—	藁の〈わだら〉に結びつけ、鎮守の神木(ケヤキ)の枝に投げかける	—	8
六日町	清水瀬	小	ヒョウマラ	ホオノキ※	—	—	○	2本1対※	—	未婚の娘が〈サエノカミ〉のご神木に投げかけ、良縁を占う/ ※2本を紐で結ぶ ※クリの木を用いた家もあった	男根	9・10
中里村	重地	1・3 小※	釜神	〈クルミ〉	〈若木迎え〉	—	○	2本1対	顔を描く	飾(一年間、カマドや台所に)→古いものは〈ドウラクジン〉の火で焼く/※年取りは正月3日、ご 神体製作は小正月(以下同)	人形	11
	西田尻	1・3 小※	釜神	〈クルミ〉	〈若木迎え〉	—	○	2本1対	顔を刻む	飾(一年間、神棚に)	人形	11
	菰沢	1・3 小※	釜神	〈クルミ〉	〈若木迎え〉	—	○	2本1対	顔を刻む	飾(一年間、神棚に)→古いものは〈ドウラクジン〉の火で焼く	人形	11

表2-2 削りかけ資料：信越1

【地域】	【時期】	【名称】	【材の樹種】	【伐採時期】	【製作道具】	【削り】	【組合】	【その他特徴】	【用途】	【表象】	【文献】	
津南町	貝坂	1・3小※	釜神	クリ	<若木迎え>	—	○	2本1対	※	飾(一年間、カマドや台所に)→古いものはイロリで焼き、天気占い/※顔を描くもの、刻むもの 両方あり	人形	11
	前倉	小	ケズリカケ	—	—	—	○	—	—	供(家の神々)	—	6
	出浦	小	かゆ箸・ワニンダレ箸	クリ※	※	—	○	(箸)	—	15日の小豆粥を食べる→イロリで燃やすか川に流す/※釜神様の前年のご神体で製作	箸	6・11
柏崎市	東長鳥	小	削懸け	ヌルデ	1・6<山入>	—	○	—	—	男児の玩具(特に行事はない)	—	12
	東長鳥(鷹之巢)	小	ボクトウ・ボッケン	ヌルデ<ノルデ・ガツ木>※	1・6<山入>	—	○※	—	—	<サイノカミ>に男児が持ち寄り、火で焼く/※削りかけで刀の鏝を表現/※ヌルデは「可なり豊富で困らなかった」	刀	13
			ノルデ箸	—		—	(箸)	中太	15日の小豆粥を食べる	箸	14	
	吉尾	小	サイノカミの御神体	コシアブラ?※<オショの木>	1・11,12日頃<若木迎え>	—	—	男女1対	顔を描く 着物着せる	飾(宿の床間)→宿の子供が御神体を持ち、他の子供は刀を腰にさしシッテを持って門付け<サイノカミ>→神社脇のケヤキに安置/※『越佐の小正月行事』には「オショの木(ノリデ)」とある	人形	6・15
			シッテ(削り花)	<ミズクサ>		—	—	○	—		—	
刀			<ミズクサ>	—		—	—	—	—		刀	
上越市	高住	小	木刀	ヌルデ	—	—	○	—	—	子供達がヌルデ製の大小の人形を背負い、削りかけの木刀を持って家々を門付け、初嫁・初婿、厄年の人を祝う→木刀は<サイノ神>の火で焼き、鎮守様の方向に投げる/※鏝を削りかけで表す。調査当時既に、削りかけはカンナ屑を結わえ付ける形に変化していた	刀	16
名立町	(字不明)	小	ホイタケ	<柳>	—	—	?	—	—	嫁(子供達が新嫁の家へ門付け「男まけ、子まけ」と尻を叩く)	刀	17
能生町	能生谷	小	花箸	<カツノ木>	—	—	○	(箸)	—	供(神)→翌日箸焼き(年占)に使用、家族が箸としても使用	箸	18
		小	デクサマ	<カツノ木>	—	—	?	男女2体ずつ	—	塞ノ神に持って行って焼く/男児のある家で作る	人形	18
能生町	能生谷	小	刀	—	—	—	○※	—	—	子供が腰にさして門付け<塞ノ神>/※削りかけで刀のツバを表現	刀	18
	木浦	小	花箸	<ヌイダ・デクノ木>	—	—	○	(箸)	—	供(神)→翌日箸焼き(年占)に使用、家族が箸としても使用	箸	18
	百川	小	お木偶さん	ヌルデ<かつノ木>	12月下旬	—	×	男女1対(夫婦)	顔を描く 着物着せる	飾(宿)→子供達がこれを持って門付け<さいのかみ>→<お松焼き>で焼く/※木偶さんの形や寸法は古くから伝わっている図面に拠って作られる	人形	19・20
		小	鳥追いデクサン	—	—	—	△※	—※	顔を描く※	※削り片を紐で留めてある、裏と表にそれぞれ男、女の顔が描かれている ※上記のバリエーションか	人形	調03
	徳合	小	さいの神さん	—	新しく作り変えない	—	×	男女1対(夫婦)	着物着せる	子供達が<さいの神さん>を持ち、太刀を腰にさして門付け<さいのかみ>→神さんの着物と太刀を焼く(人形は焼かない)	人形	19
太刀			ヌルデ	—	—	—	○	—	—	刀	19	
糸魚川市	下早川	小	(ケズリバシ)	カツラ	—	—	○	(箸)	—	※箸の花の部分をつ<稲ノ花>と呼ぶ所もある	箸	18
		小	ヨメタタキボウ	カツラ	—	—	○※	—	—	嫁(「孕め孕め」「早く実家へ帰れ」などと言いながら新嫁の尻を叩く)/※削りかけで刀のツバを表現	刀	18
	高谷根	小	アワボ	<胡桃>	—	—	?	クリに付ける	—	飾→18日に下ろす<稲扱>→味噌作りの焚物にする	—	18
		小	ハシ	<クルミ>	—	—	○	12膳	—	14日の小豆粥に入れて煮、ワラ屋根の頂上のサスに下げて一年間保存→翌年14日の晩に1本ずつ炉にくべて天気占いをする。ハシ1膳が1ヶ月を意味する	箸	21
		小	塞ノ神サン※	ヌルデ<カツノ木>	—	—	?	男女1対	—	塞の神(ご馳走をあげた後燃やす)/※男木偶をタヨサン、女木偶を御守様と呼ぶ	人形	18

表2-2 削りかけ資料：信越2

【地域】	【時期】	【名称】	【材の樹種】	【伐採時期】	【製作道具】	【削り】	【組合】	【その他特徴】	【用途】	【表象】	【文献】	
	上早川	大正月	削り掛ケノ太箸	—	—	—	○	(箸)	—	旧家の主人が正月三ヶ日に箸として使用	箸	18
	田伏	小	(削りかけの人形や太刀)	—	—	—	○	—	—	<さいのかみ>の際に作る／※人形や太刀の詳細不明。1941年当時で漸次作られなくなった	—	22
	羽生(西海)	小	サク	<カツノ木>	—	—	○	—	—	飾(神棚)	花	18
	小滝	小	イナボ	—	—	—	?	—	—	飾→20日に取り払う<イネカリ>	—	21
青海町	橋立	小	刀	<フシノ木>	—	—	○※	—	顔を描く	子供が腰にさして門付け<塞ノ神>／※削りかけで刀の鑿を表現／※柄の部分に顔を描く	刀	18
	上路	小	イナボ・米の花	<クルミ>	—	—	○	—	—	飾／※3段に削る	作物	18・21
			アワボ	<キワダ>	—	—	?	クリ等に付ける	—	飾	作物	
		ケズリバシ	<カツキ>	—	—	○※	(箸)	—	—	供(神)→年占(天気占い)に使用、15日の小豆粥を食べる／※3段(上から3,5,7片)の削りをつける	箸	18

長野県

栄村	(字不明)	小	花箸	<柳> <クルミ>	—	—	○	(箸)	—	15日の小豆粥を食べる	箸	1
	志久見	小	花ばし	—	—	—	?	(箸)	—	—	箸	2
	柳在家	小	ハナバシ	—	—	—	?	(箸)	—	15日の小豆粥を食べる	箸	3
野沢温泉町	(字不明)	小	ハナバシ	ミズキ	松迎え時or 1・11 <若木迎え>	—	○	(箸)	—	15日の小豆粥を食べる	箸	4
	平林	小	ハナ箸	ミズキ <ダンゴの木>	降雪前	—	○	(箸)	—	15日の小豆粥を食べる	箸	5
山之内町	(字不明)	小	削りかけ	—	1・2 <仕事始め>	セン	○	—	—	供(天照大神などの神々、かつては土地の境界にも)	花	6
		小	削りかけの箸	—	1・2 <仕事始め>	—	○	(箸)	—	15日の小豆粥を食べる	箸	6
	上條	小	ケズリカケ	ヌルデ	—	—	○	—	—	供(神仏)	—	7
飯山市	旧瑞穂村	小	削りかけの箸	—	—	—	○	(箸)	—	15日の小豆粥を食べる	箸	8
中野市	大熊	小	削り花	—	—	—	○	—	—	後に苗代の水口に立てる	花	9
	赤岩	小	削り花	—	—	—	○	—	—	後に苗代の水口に立てる	花	9
小谷村	(字不明)	小	稲の花 豆の花	<クルミ>	1・11 <若木迎え>	小刀	○	—	—	飾(マユダマ・神仏・戸口・窓・火棚の四隅など)	花	10・11
	北小谷	小	削り花	<クルミ> <柳> ミズキ <ミズブサ>	1・11 <若木迎え>	小刀	○	—	—	供(道陸神)	花	12
	中土	小	豆の花	<クルミ>	1・11 <若木迎え>	小刀	○	—	—	飾(火棚の四隅)	花	10・13

【地域】	【時期】	【名称】	【材の樹種】	【伐採時期】	【製作道具】	【削り】	【組合】	【その他特徴】	【用途】	【表象】	【文献】	
	中土 (奉納)	小	イネノハナ	<クルミ>	1・11 <若木迎え>	—	?	—	—	飾(大柱<おーばしら>)	—	14
	南小谷	小	稲の花	<クルミ> <柳> ミズキ <ミズブサ>	1・11 <若木迎え>	小刀	○	—	—	飾(マユダマ・神仏・戸口・窓・火棚の<明きの方>以外の三隅)	花	12・13
けいのはし けいばし			<クルミ>	—		○	(箸)	—	15日の小豆粥を食べる→春に田畑に立ててモグラや虫除けにする	箸	12	
小谷村	梅池	小	削り花	<クルミ>	1・11 <若木迎え>	—	○	—	—	飾(マユダマにつける)	花	15
白馬村	神城	小	削り花	<クルミ> <柳> ミズキ <ミズブサ>	1・11 <若木迎え>	小刀	○	—	—	—	花	12
			削り掛け	<クルミ>		小刀	○	—	—	供(神様)	—	
美麻村	(字不明)	小	栗の穂	<クルミ> <柳> ミズキ <ミズブサ>	<若木迎え>	小刀	○	—	—	飾(戸口・窓・恵比寿様・竈神様)	—	12・13
八坂村	(字不明)	小	稲の花 豆の花	<クルミ>	1・14 <若木迎え>	小刀	○	—	—	飾(マユダマ・神仏・戸口・窓・火棚の四隅)	花	16
大町市	平	小	削り花	<クルミ> <柳> ミズキ <ミズブサ>	1・11or14 <若木迎え>	小刀	○	—	—	飾(15日の粥で戸口に貼る)	花	12
			削り掛け	<クルミ> ミズキ <みずくさ>		小刀	○	—	—	供(大黒様)	—	12・17
	社	小	削りかけ	—	1・14 <若木迎え>	—	○	—	—	—	—	17
	大町	小	削りかけ	—	1・14 <若木迎え>	—	○	—	—	—	—	17
松川村	(字不明)	小	削り花	<クルミ> <柳>	1・14 <若木迎え>	小刀	○	—	—	飾(ヒイラギと共に戸口に)	花	18
池田町	(字不明)	小	削り花	<クルミ> <柳> ミズキ <ミズブサ>	<若木迎え>	小刀	○	—	—	飾(ヒイラギと共に戸口に)	花	12
	十日市場	小	ケズリカケ	<柳>	—	—	○	—	—	飾(玄関に貼る)	—	14
明科町	東川手	小	削りかけ 頭宝花	ヌルデ <柳>	<若木迎え>	—	○	—	—	飾(削りかけに粟or稲・稗の実をつけて糊で入口に貼る)	花	19
豊科町	旧上川手 村	小	削りかけ 頭宝花	ヌルデ <柳>	<若木迎え>	—	○	—	—	飾(入口の鴨居に貼る)／15日の粥を食べる<粥かき棒>製作時の削り屑で作る。	花	19
	(字不明)	小	削り花 ほんだれ 頭宝花	<柳>	1・14	—	○	—	—	飾(マユダマのゆで汁で入口の鴨居に貼る)／15日の小豆粥を混ぜる<けえかき棒>製作時の 鉋屑で作る。大正頃より紙に「ほんだれ」と書いて貼る家も	花	20

【地域】	【時期】	【名称】	【材の樹種】	【伐採時期】	【製作道具】	【削り】	【組合】	【その他特徴】	【用途】	【表象】	【文献】		
坂井村	(字不明)	小	削りかけ 頭宝花	ヌルデ 〈柳〉	〈若木迎え〉	—	○	—	—	飾(入口の鴨居に貼る)	花	19	
三郷村	(字不明)	小	ホンダレ 頭宝花 (ずほうばな)	〈柳〉	1・13or14 〈若木迎え〉	—	○	—	—	飾(マユダマのゆで汁で入口の鴨居に貼る)／15日の小豆粥を混ぜる〈粥かき棒〉製作時の鉋屑で作る。大正頃より紙に「ほんだれ」と書いて貼る家も。魔除け・風邪除けになる	花	21	
生坂村	(字不明)	小	(削りかけ)	〈ヤナギ〉	1・13 〈若木迎え〉	—	○	(箸)	—	(詳細不明)	—	22	
松本市	本郷	小	(削りかけ)	(紙)	—	—	×	—	—	飾(白紙に切り込みを入れ、団子のゆで汁で部屋ごとの鴨居に貼る)※削りかけの略式	—	19	
	島内	小	(削りかけ)	(紙)	—	—	×	—	—	飾(白紙に切り込みを入れ、団子のゆで汁で部屋ごとの鴨居に貼る)※削りかけの略式	—	19	
	今井	小	削りかけ 頭宝花	ヌルデ 〈柳〉	〈若木迎え〉	—	○	—	—	飾(入口の鴨居に貼る)／白紙に切り込みを入れた略式の物を使う家も	花	19	
塩尻市	宗賀	小	(削りかけ)	(紙)	—	—	×	—	—	飾(「頭宝花」と書いた白紙に切り込みを入れ、団子のゆで汁で部屋ごとの鴨居に貼る)※削りかけの略式	—	19	
	北小野 (旧筑摩 地村)	小	削りかけ 頭宝花	ヌルデ 〈柳〉	1・4 〈若木迎え〉	—	○	—	—	飾(入口の鴨居に貼る)	花	19	
朝日村	(字不明)	小	(削りかけ)	(紙)	—	—	×	—	—	飾(白紙に切り込みを入れ、団子のゆで汁で部屋ごとの鴨居に貼る)※削りかけの略式	—	19	
		小	頭坊花 (ずほうばな)	—	〈若木迎え〉	—	—	—	—	—	花	23	
檜川村	桜沢	小	ホンダレ	ヌルデ?	1・8 〈コトハジメ〉	—	○	—	—	飾(戸口や部屋の入口に飯粒で貼る)	—	24	
	賛川	小	ホンダレ	〈柳〉	—	—	○	—	—	飾(神棚に供え、鴨居に吊るす)／金持ちの家は人に頼んで大きなホンダレを作った)→子供達が門付けしく鳥追い、ホンダレを集めて15日の〈ドンド焼き〉で燃やす／※中国から害鳥が来て疫病が流行した際、ホンダレで祓ったとの伝説あり	—	24・ 25	
	平沢	小	ズボバナ	ヌルデ 〈スイスイ〉・ ヒノキ(代)	—	—	○	—	—	飾(出入口・各部屋・道具に貼る)／※木地屋から貰う家も	花	24・ 25	
	奈良井	小	ケズリバナ ズボバナ	〈柳〉	—	—	○	—	—	飾(正月の松跡の門口・神棚、戸間口)／※一部の木地屋が作る、また川入地区から売りにきた	花	24・ 25	
	羽淵	小	ケズリバナ・ ズボバナ	オオバ ヤナギ	1・4 〈若木迎え〉 ※製作前に 3日程乾燥	ハシナタ・ 小刀 (押して 削る)	○	カツラに 付ける	—	—	供(道祖神・神仏・観音様・墓等)→道祖神に供えたものは15日の〈オンベ〉で焼く	花	24・ 26
		小	ハナ ズボバナ	オオバ ヤナギ	—	—	○	—	—	—	飾(神棚・戸口)／※代わりに紙製のシデを用いる家も	花	26
檜川村	川入	小	ズボバナ	〈柳〉	1・2,4,8 〈若木迎え〉	—	○	カツラに 付ける	—	飾(ダンゴノキであるカツラに挿し、神仏に供える)	花	27	
		小	ハナ	〈柳〉	—	—	○	—	—	—	供(神仏に供え、戸口に貼って魔除けにする)	花	27
木曾 福島町	西洞	小	ハナ	ムラサキ シキブ(ヒモミ ノ木)	前日	鎌状の刃物 (引いて 削る)	○	竹・ マユダマに 付ける	—	飾(竹に挿して松の跡・馬頭観音・道祖神に供えるほか、マユダマの木にも付ける)	花	28	
	黒川	小	ハナ	—	—	—	○	—	—	供(神棚)	花	29	

表2-2 削りかけ資料：信越5

【地域】	【時期】	【名称】	【材の樹種】	【伐採時期】	【製作道具】	【削り】	【組合】	【その他特徴】	【用途】	【表象】	【文献】
	下条	小	けずり花	ヌルデ?<ホンダルの木>	1・13	—	○	—	—	供(墓)	花 28
上松町	(字不明)	小	大根	ヌルデ<ホンダル>	1・2<若木迎え>	—	○	2本1組	皮を削って大根と書く	飾(魔除けとして表に)	作物 30
			削り花ハナ	コウゾ・クワ・ムラサキシキブ	—	—	○	※マユダマに付ける	—	供(道祖神・墓・野仏等に供えるほか、マユダマの木に付ける)	花 29・30
	吉野	小	ハナ	<花の木>	1・2<デゾメ>	—	○	—	—	飾(<ホンダル(3本1組の丸木)>と共に門口に飾る)	花 14
三岳村	(字不明)	小	大根	ヌルデ	—	—	○	3本1組	—	供(3本を束にして松飾の跡・馬頭観音等に供える)	作物 31
			ハナ	ムラサキシキブ<ヒモミノ木>	—	鎌状の刃物(カミノリを改造)	○	—	—	供(松飾の跡・馬頭観音等に供える)	花 31
	牧	小	カザリ花	ヌルデ・カツラ・<マイメ>	1・2<仕事始め>	—	○	—	—	供(神棚・塞の神・地藏様)	花 32
	本洞	小	カザリバナ	—	1・2<仕事始め>	<独特の道具>	○	—	—	供(神棚)	花 14
			ケズリバナ	ヌルデ・カツラ・<マメイ>	1・2<仕事始め>	—	○	—	—	神棚やサイノカミの祭壇に飾り、そこで<マツヤキ>をする	花 14
南木曾町	与川	小	大根	<ホンダル>	—	—	?	2本1組	皮を削って大根と書く	飾(門口に立てる)／※「木の皮の半分を削って大根の葉のように」する	作物 33
			稲の花	クワなど	—	ナイフ	○	—	—	飾(各部屋の出入口に貼る)	花 33
	三留野	小	大根	<ホンダル>	—	—	?	2本1組	皮を削って大根と書く	飾(門口に立てる)／※「木の皮の半分を削って大根の葉のように」する	作物 33
	北部	小	大根	<ホンダル>	—	—	?	2本1組	皮を削って大根と書く	飾(門口に立てる)／※「木の皮の半分を削って大根の葉のように」する	作物 33
			稲の花	クワなど	—	ナイフ	○	—	—	飾(各部屋の出入口に貼る)	花 33
南木曾町	田立	小	大根	<ホンダル>	—	—	?	2本1組	皮を削って大根と書く	飾(門口に立てる)／※「木の皮の半分を削って大根の葉のように」する→苗代をおこす際にこれで小豆ご飯を炊いて田の神に供える	作物 33
			稲の花	クワなど	—	ナイフ	○	—	—	飾(各部屋の出入口に貼る)	花 33
	田立(向栗畑)	小	ホンダル(総称)	—	—	—	○	2本1組※	大根と書く	飾(「大根」と書いた削りかけ状の木と「十三月」と書いた木を2本1組にし、何対かを竹に下げる。これを母屋や蔵の前に立てる)	— 14
長門町	古町ほか	小	けずりかけのはし	ヌルデ	—	—	○	(箸)	—	供(えびす様)	箸 34
佐久市	平賀	小	けずりつかけ	—	—	—	○	—	—	—	— 35
	沓沢	小	ヒエノハナ	ヌルデ	—	—	○	<ヤマグワ>に付ける	—	飾(ヤマグワに挟んで堆肥の上に立てる)	花 36
白田町	三分	小	イネノハナ	ヌルデ	1・4<初山>	—	○	—	—	供(神棚・えびす・大黒・仏壇・床間・蔵・屋敷神等)	花 36
	十二新田	小	イネノハナ	ヌルデ<ヌリデッポ>	1・2<初山>	—	○	—	—	供(神棚)	花 37

【地域】	【時期】	【名称】	【材の樹種】	【伐採時期】	【製作道具】	【削り】	【組合】	【その他特徴】	【用途】	【表象】	【文献】
佐久町	(字不明)	小	木の花・稲の花 粟穂・稗穂 (あわっぼ・ ひえっぼ)	ヌルデくノリ デッポー	1・2<初山>	—	○	—	—	供(神棚)	花 38
	上本郷	小	イネノハナ	ヌルデ くノリデ	—	—	—	—	—	—	花 36
	余地	小	イネノハナ	ヌルデくヌリ デッポー	1・2<初山>	—	○	—	—	供(神棚)	花 37
八千穂村	(字不明)	小	イネノハナ	ヌルデくヌリ デッポー	1・2<初山・ 若木伐り>	—	○	—	—	—	花 39
	佐口	小	イネノハナ	ヌルデくヌリ デッポーウ	1・2<初山>	—	○	—	—	供(神棚)	花 37・ 40
南相木村	(字不明)	小	イネノハナ	ヌルデくヌリ デッポー	1・2<初山>	—	○	—	—	供(神棚)	花 41
小海町	(字不明)	小	稲の花・ 作物の花	ヌルデ くノリデ	1・2<初山>	—	○	<ダンゴバラ> の木に付ける	—	飾(庭の堆肥に立てる)	花 42
	松原	小	稲の花	ヌルデ くノリデ	1・2 <仕事始め>	—	○	—	—	飾(門松のくはかま木)に立てる)	花 42
			ハナ	<クルミ>		小刀	○	<ナラ>に 付ける	—	飾(厩外の堆肥に建てる)	花 43
小海町	宮下	小	イネノハナ	ヌルデくヌリ デッポー	1・2<初山>	—	○	—	—	供(神棚)	花 37
南牧村	板橋	小	削りかけ	<クルミ>	1・11	—	○	—	—	飾(門松をとった跡に立てる)	— 36
川上村	(字不明)	小	穂垂れ	<クルミ>	1・11 <ほんだれ はやし>	—	○	木に付ける	—	飾(堆肥に立てる)	— 44
	大深山	小	けいかき棒	<クルミ>	1・11 <ほんだれ はやし>	—	○	マユダマを 挟む	頭部十字	頭部の切り込みにマユダマを挟み、15日の小豆粥を混ぜる→供(神棚)	— 44
岡谷市	横川	小	削り掛け	ヌルデ くのりで	—	—	○	—	—	飾(門口・神棚などに2枚ずつ貼る)	— 45
	小井川	小	ずぼ花	ヌルデ くのりで	—	カマ	○	—	—	供(玄関や蔵などの出入口)	花 46
	駒沢	小	かゆかき棒	ヌルデ くのりで	12月中 <お松はやし>	—	○	—	頭部十字	15日の餅粥を混ぜる→苗代の水口に立てる	— 45
	新倉	小	ずぼう	ヌルデ くのりで	—	—	○	—	—	飾(年取りの飯粒で門口に貼る)	— 45
下諏訪町	(字不明)	小	ホンダレサマ ・アワボヒエ ・ズボウゲ	ヌルデ・ く柳	—	—	○	—	—	供(門口・戸口・神仏・恵比寿棚、家の外に棚を作って供えたりもした)	— 47
	(字不明)	小	けーだれ	<柳>	—	—	○	—	—	供(戸口・神棚・恵比寿棚等に2枚ずつ貼る)	— 48

【地域】	【時期】	【名称】	【材の樹種】	【伐採時期】	【製作道具】	【削り】	【組合】	【その他特徴】	【用途】	【表象】	【文献】		
	東町下	小	ほんだれ様	ヌルデ 〈のりで〉	—	—	○	—	—	飾(門口の両側に貼る)	—	49	
	富部	小	ほんだれ	ヌルデ 〈のりで〉	—	山鋸・鉈・鎌・ 小刀	—	—	—	供(歳神に供える。各戸口に貼る)	—	50	
諏訪市	(字不明)	小	削り花・ 削りかけ・ ホンダレサマ	〈柳〉・ヌルデ 〈のりで〉・ キハダ 〈きわだ〉	1・13,14 〈ワカキ バレエ等〉	—	○	—	—	飾(門口や神仏等、大正月の門松・注連縄の跡／15日の粥で貼る家も)	—	51	
	神宮寺	小	ホンダレサマ	ヌルデ	—	—	○	—	—	飾(神棚・家の出入口)	—	52	
富士見町	旧富士見村	小	稲の花	ヌルデ	1・11,13	—	○	—	—	飾(長押しに並べて挿す)	花	53	
辰野町	小野	小	頭宝花	ヌルデ 〈ノリデ〉・ 〈柳〉	1・11 〈ホンダレ様を はやす〉	小刀	○	—	—	飾(各部屋の出入口の鴨居に餅で貼り付ける)／※紙に「頭宝花」と書いて代用とする家も	花	54	
	北大出	小	頭宝花	ヌルデ	1・8〈初山〉	—	○	—	—	飾(各部屋の鴨居に貼る)／※紙に「頭宝花」と書く家も	花	54	
南箕輪村	大泉	小	入宝花 (づぼうばな)	(紙)	—	—	×	—	—	飾(中折紙に「入宝花」と書き、神棚・戸口に小豆飯で貼り付ける)	花	55	
伊那市	西町	小	削り懸け	〈柳〉	1・8〈初山〉	—	○	—	—	飾(入口)	—	56	
高遠町	山室	小	けずりかけ 頭宝花	〈柳〉	1・1〈初山〉	—	○	—	—	飾(家の東西南北・土蔵・小屋・歳神様)	花	57	
長谷村	美和	小	はなぎ	ヌルデ	—	—	○	—	—	供(神棚)	—	57	
飯田市	伊賀良	小	削掛	—	—	—	○	—	—	飾／※丁寧な家のみ	花	58	
	千代	小	だいこん	—	—	—	○	2本1組	頭部に 十字を書く	供(2本を縄で結んでえびす棚に吊るす)	作物	59	
	龍江	小	けずり花	—	—	—	○	〈檜〉に 付ける	—	供(墓)	花	59	
豊丘村	河野	小	(粥箸)	—	—	—	○	—	両端切込	供(両端の切込に丸餅を挟んで神棚に供える)	—	59	
	田村	小	かゆばし	—	—	—	○	—	頭部十字	供(神棚)→さなぶりの際に田の神へ供える	—	59	
阿智村	(字不明)	小	はな	ヌルデ	1・13(or1・2) 〈若木迎え〉	—	○	—	—	飾(台所・大黒柱・庭等に立てたマユダマの元に置く、墓に供える)	花	60	
	園原	小	だいこん	ヌルデ		鎌	○	—	—	—	供(えびす様)／※大根は畑作物の代表	作物	60
	伍和大鹿	小	だいのこ	ヌルデ		—	?	—	—	—	飾(台所・大黒柱・庭等に立てたマユダマの元に置く)	作物	60
根羽村	(字不明)	旧正月	けずりかけ	ヌルデ 〈フシノキ〉	—	—	○	—	—	(詳細不明)／※大根を表す	—	61	
阿南町	早稲田	小	大根	ヌルデ 〈アワポー〉	1・2〈初山〉	—	○	2本1組	皮を削って 大根と書く	供(えびす大黒)→田植え日の朝御飯の焚物にする家も	作物	62	
			花	〈コバノキ〉・ キブシ 〈マメシノキ〉・ ヌルデ 〈アワポー〉	—	—	○	竹に付ける	—	供(仏様・墓)／※削ったものを火であぶって縮らせる)→20日に下ろす(ハナオサメ)	花	62	

表2-2 削りかけ資料：信越8

【地域】	【時期】	【名称】	【材の樹種】	【伐採時期】	【製作道具】	【削り】	【組合】	【その他特徴】	【用途】	【表象】	【文献】
	帯川	小	花	〃	1・2<初山>	—	○	竹に付ける	—	飾(皮を剥いたニワトコ・キブシ(稲穂)、花、薪や<アワボ>(ヌルデ)>(実)を竹に付け、門松の跡に立てる/仏様・墓に供える/※削ったものを火であぶって縮らせる)→20日に下ろす<ハナオサメ>	花 62
	日吉	小	花	〃	1・2<初山>	—	○	竹に付ける	—	供(仏様・墓・祠等/※削ったものを火であぶって縮らせる)→20日に下ろす<ハナオサメ>	花 59・62
天龍村	(字不明)	小	ハナ	ヌルデ<フシノキ>・<クルミ>	1・2<初山>	—	○	竹に付ける	—	飾(切餅<モチバナ>と共に竹につけ座敷・大黒柱の前等に飾る)→20日に下ろす<モチユスリ>	花 63
			ハナ	ヌルデ<フシノキ>	1・2<初山>	—	○	—	十二月と書く	供(両端から削りかけたヌルデの丸材にお供え餅を載せ、膳と共にえびす様に供える)	花 63
			エビスサマノハシ・ケージャクシ	<クルミ>	1・2<初山>	—	○	—	—	供(えびす棚)→16日の粥を門等に立てた<ニューギ>にはねかける。最後に粥を食べて箸を折る	箸 63
	伊那小沢	1・1<初墓参り>	ハナ	<クルミ>	—	—	○	—	—	供(墓)	花 52
	大河内	小	ハナ	ヌルデ<フシノキ>	1・8<仕事始め>	—	○	—	十二月と書く	供(両端から削りかけたヌルデの丸材にお供え餅を載せ、えびす様に供える)→20日に下ろす	花 64
	坂部	小	ハナ	ヌルデ<フシノキ>	1・2<初山>	—	○	—	—	飾(居間・えびす様・台所)	花 65
エビスノハシ			—	—	—	○	2本1組	2本を白紙で包む	16日の粥を門松や家の柱毎に立てかけた<ニューギ>にはねかける。	箸 65	
泰阜村	(字不明)	小	大根	ヌルデ	1・2<仕事始め>	—	○	2本1組	—	供(2本を縄で結んで神棚に)	作物 66
上村	遠山	小	ゴイワイ棒	<クルミ>	1・11	—	○	—	—	嫁(嫁入りなど祝事のあった家)を子供達が門付け、ゴイワイ棒で床を叩く)→<管粥の神事(豊凶占い)>に用いる	— 67

富山県

朝日町	境	小	アワボヒエボ	(若木)	1・14<若木迎え>	刃物	○	3本1組	—	供(3本束ねて神棚の近くに飾る)/皮を剥いたものが粟穂、剥かないものが稗穂	作物 1
	宮崎	小	イワイバン	<カツノ木>	1・14<初山>	—	○	(箸)	—	15日の小豆粥を食べる→翌年年占に用いる<箸焼き>	箸 1
入善町	上原	小	イワイバン	<カツノ木>	1・14<若木迎え>	—	○	(箸)	—	15日の小豆粥を食べる→翌年年占に用いる<箸焼き>	箸 1
	横山	小	イワイバン	<カツノ木>	1・14<若木迎え>	—	○	(箸)	—	15日の小豆粥を食べる→翌年年占に用いる<箸焼き>	箸 1
黒部市	(字不明)		稲の花	ミズキ	—	—	○	—	—	(詳細不明)	花 2
			祝い箸・恵比寿様の箸・稲の花	ヌルデ<カツノキ>・<楊>・ミズキ	—	—	○	(箸)	—	15日の小豆粥を食べる→翌年年占に用いる<箸占い>、恵比寿様に供えた箸は後に田の畦豆の杭にし、鳥・虫除けとされた	箸 2・3
	若栗		祝い箸	—	—	—	○	(箸)	—	15日の小豆粥を食べる→供(神棚に供え、翌年年占に使う<箸焼き>)	箸 2
	田家		祝い箸	—	—	—	○	—	—	15日の小豆粥を食べる	箸 4

【地域】	【時期】	【名称】	【材の樹種】	【伐採時期】	【製作道具】	【削り】	【組合】	【その他特徴】	【用途】	【表象】	【文献】
		(嫁祝の棒)	〈柳〉	—	—	○	—	—	嫁(子供達が新嫁の家を門付、尻を叩いて祝う<やちやち>)／※棒の2方を削りかけにする	—	3
	笠破	祝い箸	〈カツキ〉	—	—	○	(箸)	—	15日の小豆粥を食べる	箸	5
	嘉例沢	栗穂稗穂	ヌルデ	—	—	△	竹に付ける 6本1組	—	供(割竹に挿し、6本1組にして神棚に供える)／※皮を剥いたものが栗穂、剥かないものが稗穂で、いずれも側面に「切れ目」をつける	作物	2
		祝い棒	〈楊〉	—	ナタ	—	—	—	嫁(子供達が初嫁の家を門付、尻を叩く真似をして祝う)	—	4
	大布施	稲の箸	—	—	—	○	(箸)	—	小正月の儀礼に用いる。田植の飯を焚く燃料とすると豊作になるという	箸	2
宇奈月町	愛本	小 アワボヒエボ	(若木)	1・14 (若木迎え)	刃物	○	3本1組	—	供(3本束ねて神棚の近くに飾る)／皮剥いたものが栗穂、剥かないものが稗穂	作物	1
	下立	祝い箸／オオベス様の箸	ハンノキ	—	—	○	(箸)	—	15日の小豆粥を食べる	箸	6・7
魚津市	(字不明)	小 イワイバシ／花箸／削り花	ヌルデ 〈カチ木〉	1・14	—	○	(箸)	—	家族と神々の分を作り、15日の小豆粥を食べる→翌年年占に用いる<箸占>	箸	8・9
	石垣平	小 イワイバシ	〈クロモリ〉・ 〈カツキ〉	—	—	○	(箸)	—	15日の小豆粥を食べる	箸	10
	片貝	小 箸	ヌルデ 〈カチ木〉	—	—	○	(箸)	—	家族と神々の分を作り、15日の小豆粥を食べる→翌年年占に用いる	箸	11
	鹿熊	小 オモキボ	ヌルデ 〈カツノキ〉	1・14	—	○	—	—	嫁(男児が初嫁の家を門付、尻を叩いて祝う)	—	6・7・ 12
	鉢	小 祝い箸	—	—	—	○	(箸)	—	15日の小豆粥を食べる→供(神棚に供え、翌年年占に使う<箸焼き>)	箸	6
	虎谷	小 祝い箸	—	—	—	○	(箸)	—	15日の小豆粥を食べる→供(神棚に供え、翌年年占に使う<箸焼き>)	箸	6
滑川市	田林	小 削り箸／ 祝い箸	ヌルデ 〈カツ木〉	1・14	—	○	(箸)	—	15日の小豆粥を食べる	箸	13
上市町	五位尾	小 祝箸	—	1・14	—	○	(箸)	—	15日の小豆粥を食べる。家の広間に飾った米俵に供える	箸	14
	東種	小 嫁ノ叩き棒	〈勝木〉	1・14 (若木迎え)	—	?	—	—	※詳細不明	—	15
富山市	水橋沖	小 箸	ヌルデ 〈カチ木〉	1・13-14頃	—	○	(箸)	—	15日の小豆粥を食べる→粥を付けて神様・井戸端・農具等にかける→保存しておき田植時に燃すと手の痛みが治るといった	箸	15
立山町	(字不明)	小 稲の花	ミズキ	—	—	○	—	—	※詳細不明	花	16
		小 祝い箸／花箸	〈カツノキ〉	—	—	○	(箸)	—	供(神に供え、家人も使う)→翌年の年占に使う<箸焼き>	箸	16
	芦峠寺	小 おもきぼ／ オムキムキ・ コムキ	ヌルデ 〈カツノキ〉	1・14	—	○	—	—	嫁(男児が初嫁の家を門付)	—	12・ 15・ 16
大山町	日尾	小 祝い箸	—	—	—	○	(箸)	—	15日の小豆粥を食べる	箸	17
		小 祝い棒	ヌルデ・クリ ・クワ・ 〈クルミ〉	—	—	○	—	—	※詳細不明	—	17
八尾町	栃折	小 祝い箸	—	—	—	○	(箸)	—	15日の小豆粥を食べる→供(神棚に供え、翌年年占に使う<箸焼き>)	箸	6
利賀村	(字不明)	小 ハナバシ	〈カチキ〉※	—	—	?	(箸)	—	15日の小豆粥を食べる／※近年は〈柳〉で代用	箸	18

【地域】	【時期】	【名称】	【材の樹種】	【伐採時期】	【製作道具】	【削り】	【組合】	【その他特徴】	【用途】	【表象】	【文献】	
井波町	院瀬見	小	ハナバシ	—	—	—	○	—	—	15日のくアズキノロを食べる、団子をさして広間の鴨居に挿す→2月15日のくネハンゾの日に団子を食べる	箸	15
福光町	小院瀬見	小	粟穂・稗穂	—	—	刃物	○	—	—	供(3本束ねて神棚の近くに飾る)／皮剥いたものが粟穂、剥かないものが稗穂	作物	6
小矢部市	内山	小	粟穂・稗穂	—	—	刃物	○	—	—	供(3本束ねて神棚の近くに飾る)／皮剥いたものが粟穂、剥かないものが稗穂	作物	6
福岡町	(字不明)	小	花ばし	ヌルデ <勝木>	—	—	○	(箸)	—	15日の小豆粥を食べる	箸	6

石川県

輪島市	—	小	大なが棒	—	—	—	○	—	—	供(神棚)	—	1
鹿島町	原山	小	カツキ箸／ 稲の穂	ヌルデ <カツキ>	1・14	—	○	(箸)	—	15日の朝食に使用→燃す／※家族用・神仏用に作るが、神仏用は「先が広がるように削った箸」でく稲の穂と呼ぶ	箸	2
志雄町	所司原	小	花箸	—	—	—	○	(箸)	—	※元の方を5片の花びらに裂き、「ごくさまの花」といった	箸	1
	針山	小	花箸	ホオノキ	—	—	○	(箸)	—	15日の小豆雑煮を食べる→種米の俵に挿しておく	箸	1
金沢市	菊水町	小	ヨメウチボウ	<クルミ>	—	—	○	—	—	嫁(男児が初嫁の家を門付け、団子や菓子を貰う)	—	3
	堂町	小	ヨメウチの カタナ	<クルミ>	—	—	?	—	絵を描く	嫁(男児が刀を腰にさし、初嫁の家を門付け「祝いましょう」と言いながら伐りつける)	刀	3
	森本	小	カツキバシ	<カツキ>	—	—	?	(箸)	—	15日の小豆粥のダンゴをカツキバシに挿し、2本タナモミに挿す→ダンゴは春のクワオロシの際に食べ、箸は田植えの朝、焚物にする／※箸は「稲にかたどる」	箸	4